

平成 28 年度 学校評価

視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価	総合評価	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	・自信を持って社会参加し、自立に対する意欲をもって臨む生徒を育成する教育課程を検討し、再構築する。	①今までの実績を整理、評価しながら、よりよい教育課程を検討し実施に向けた方策を検討して試案を作成する。 ②特別支援学校としての政治参加教育のあり方を探求し、構築する。	①校内研究を活用し、教員の思いや考え方を共有しながら、計画的に教育課程を作っていく。 ②模擬投票の試行に向けて、架空選挙・事前事後学習を計画的に行う。	①平成29年度実施できる教育課程を構築することができたか。 ②模擬投票に関わる授業を適切に設定し、生徒の政治参加に対する意識を高められたか。	①職員の見解、保護者へのアンケート結果なども考慮して教育課程を構築することができた。 ②模擬投票の授業を構築できた。実施時期や学習内容等、選挙学習に必要な項目を整理することができた。	①未着手な部分、検討が必要な部分がある。検討課題の整理を早急に行い、次年度、速やかに検討できるようにする。 ②保護者・地域への理解普及のため、保護者・地域と連携した研修会等を検討していく。今後の参考のため、今年度の取組みを整理しておく。	・あまり訓練的でなく、社会に出て役に立つことの学びを大切にしたい教育課程や学習内容を選び、できたことを確認しながら進めて欲しい。 ・重度の方の権利擁護のことも含め「自分らしく」「わかりやすい授業」を目指すことはとても大切である。 ・18歳選挙権、是非学校でも指導して欲しい。	①職員の見解や保護者のアンケートをもとに、生徒の実態等に応じた教育課程を構築することができた。 ②各学年に応じた架空の投票、模擬投票等の学習内容や方法、進め方について整理することができた。	①新教育課程を編成した実績をもとに、「社会に出て役立つこと」を大切にしたい授業実践を展開していく。 ②今年度の成果をもとに、「情報教育の充実」など新しい課題に取り組んでいく。
2 (幼児・児童・)生徒指導・支援	・生きる力の基盤となるものを育む授業に活かせるアセスメントを検証し、指導に反映させる。 ・社会生活に必要な、他者との協調・思いやり、規範・モラルの意識を育む指導を充実させる。	①面談、相談、気づきを指導に活かす仕組みを作る。 ②生徒会・部活動・行事等を通し、他者との協調性を育み、集団参加への意欲を高める。	①各種教育計画作成と個人面談、相談等を計画的に実施する。 ②日常的に生徒に関する情報交換を積極的に行い、生徒会・部活動・よこひな祭等の生徒が主体的に活動できる機会を多く設定する。	①個人面談や生徒からの聞き取りの時間を適切に設定し、アセスメントを授業に反映できたか。 ②生徒の状況を把握して迅速に対応できたか。また、活動をとおして、生徒が他者との協調性を高めることができたか。	①個人面談等を行うことにより保護者・本人の意見を反映することができた。 ②生徒の興味関心や要望等を把握し、活動内容を工夫するなど、生徒が意欲的に参加できるようにした。	①面談時間を確保するため、面談期間を短縮日課にする。アセスメントの内容については再検討が必要である。 ②生徒の満足度を高め、生徒の活動計画を企画していくとともに、各グループが連携して、円滑に取組みが実施できるようにする。	・「生徒が言われたことをどう理解するのか」を把握して指導・支援して欲しい。(このことに関するアセスメントも必要) ・あいさつ運動等、生徒同士で関わる活動はとても良い。 ・「できること」を踏まえた指導をこれからも継続して欲しい。	①「個人面談」を充実させ、保護者、本人の意見やニーズを大切にしたい。計画や授業を行った。 ②生徒の興味関心や意見や要望等から、活動内容や場所等を工夫し、生徒がすすんで活動できるようにした。	①今年度把握した「保護者、本人の意見やニーズ」をもとに、アセスメントの方法、内容等の研究を行う。 ②生徒会・部活動や行事の担当者が、他の教員や関係機関と連携を取り、生徒が主体的に活動できる場所、時間を保障する。
3 進路指導・支援	・生徒が納得できる進路を選択できるように、生徒の思い、状態像を反映した指導、支援を行う。	①具体的な卒業後の生活イメージを持たせ、生徒の社会参加の意欲を高める。 ②安定し、充実した卒業後の生活を送れるよう、卒業生のアフターフォローも充実させる。	①職場見学会を実施するとともに、卒業生とその保護者の話を在校生とその保護者が聞く会を設定する。 ②アフターフォローに関する年間計画を作成し、課題解決に向けて旧担任を含め、関係者と協力して取り組む。	①職場見学会や進路学習、現場実習等により、生徒一人ひとりの課題や目標を明確することができたか。 ②アフターフォローの状況を多くの職員が共有し、関係機関と適切な連携を行い、課題解決できたか。	①学年の実態に応じて回数や場所を設定し実施した。 ②進路担当と旧担任とで連携し、実施した。必要に応じて関係機関と連携し、課題解決にあたった。	①生徒の実態から、3年間を見通した見学先を検討していく。福祉事業所を利用している卒業生の報告の場を設定する。 ②今後卒業生の増加に伴い、回数等を検討する。関係機関を含めたフォローアップ体制を検討していくことが必要である。	・職場体験・見学は数多く体験するより、目的意識、動機付けが大切。 ・卒業後に向け、縦割り社会を意識した授業展開をして欲しい。 ・学校と支援機関等の役割分担を明確にして、継続した支援を行っていくことが大切である。学校のアフターフォローは継続して欲しい。	①進路担当と連絡を密にして、各学年の状況や生徒の実態に応じた職場見学や体験学習の場所、回数を設定することができた。 ②卒業生の状況からアフターフォローの計画を作成し、職員や関係機関の情報に基づき卒業生に応じた支援を行うことができた。	①今年度の成果を踏まえ、見学・体験を生かした学習内容や指導方法を検討し、個に応じた進路選択が行われるようにする。 ②企業、福祉事業所や関係機関と連携し、卒業生増加に対応できる定着支援の方法や関わり方を検討する。
4 地域等との協働	・地域の特性を活かしたセンター的機能を検討し、インクルーシブ教育の推進に寄与する。	①公開講座、教育相談、地域のイベントにおいて参加者を増やすことにより、学校と地域のつながりを深める。 ②地域と連携した活動の実施、防災体制を構築する。	①公開講座を実施するとともに、関係機関のイベント等の活動情報を地域に提供する。 ②地域防災拠点運営委員会の議論を踏まえて、校内体制を検証する。	①地域や参加者のニーズに応じた公開講座を実施することができたか。また、関係機関の活動情報を迅速に提供できたか。 ②地域防災拠点運営委員会への参加で、地域へ貢献できたか。	①地域等のニーズに応じた講座を実施した。関係機関からの連絡から、イベント等の情報を提供できた。 ②地域防災拠点運営委員会、防災訓練への参加を積極的に行った。	①今後とも、地域のニーズに応じて、講座の内容や講師を検討していく。新たなイベントの情報提供を適時に行っていく。 ②地域の防災体制との連携を意識し、本校の防災体制等を地域へ積極的に発信していく。	・イベントのちらし等の配布については、方法など地域と協力して行うことが必要である。 ・学校が実施している防災教育と地域防災拠点の活動を融合させることはとても良い。	①地域等の参加者に応じた内容や講師を設定し実施することができた。本校保護者を含め、地域の方に、関係機関のイベント等を紹介できた。 ②地域防災拠点運営委員会、防災訓練への参加を積極的に行った。	①今年度の成果から、情報発信の方法や関わり方を工夫し、地域と協力的な取組みを拡充する。 ②日常的な活動や防災避難訓練等の内容を見直し、地域と連携した活動を検討していく。
5 学校管理 学校運営	・学校・教職員の特別支援教育の専門性をより向上させる。 ・事故を未然に防ぎ、学校への信頼を維持する。	①専門性を高めるための校内研究の手法を構築する。 ②各業務のチェックリストを作成するとともに、事故を防ぐための業務体制を随時検証する。	①研究課題について様々な校内研究の手法を試行し、検証する。 ②事故不祥事防止会議を実施し、校内の各会議等での事故事例や事故防止等の情報を共有する。	①職員が意欲を持って研究に取り組み、研究を深めることができたか。 ②ヒヤリハットを適切に扱い、事故・不祥事を未然に防ぐことができたか。	①本校の課題等に応じ研究内容を設定し、主体的に取り組めるようにした。 ②文書管理、PC内サーバー管理など、適切に行うことができた。	①今後とも、教員の見解、要望や学校の課題に基づいた研究テーマを設定していく。 ②過去の事例等から、事故・不祥事を未然に防ぐための方策等を検討していく。	・研修の専門性は、広く社会の中で横断的に生きていけるための専門性が良い。 ・「人に対する支援」「仕事に向き合う姿勢」を大切にした学校運営が必要である。	①本校の状況や職員の見解に基づいて、研究内容や方法を工夫し、職員の資質を向上させた。 ②管理職等の呼びかけにより、文書管理、PC内サーバー管理等を適切に行うことができた。	①研究テーマや方法、内容を検討し、教員が主体的に取り組めるようにする。 ②これまでの実績から、事故・不祥事を未然に防ぐための方法を考えて行動していく。